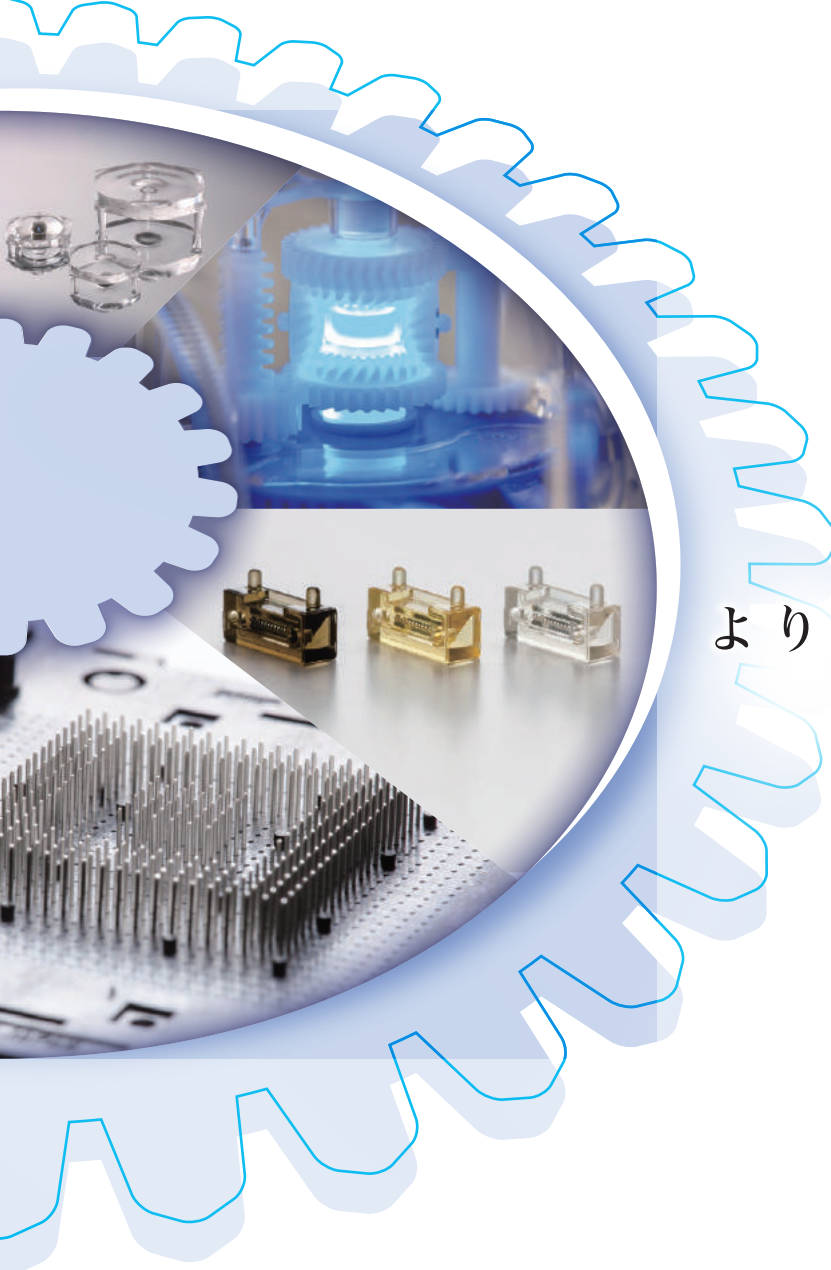


株式会社エンプラス

(証券コード:6961)



よりよき明日を目指して

平成30年3月期 (第57期) 報告書  
平成29年4月1日から平成30年3月31日まで

**enplas**



株式会社エンプラス

## Contents

- 01. 企業理念
- 02. 株主の皆様へ
- 04. 連結業績の推移
- 05. 事業別概況
- 07. EnplasのPolicy
- 08. 連結財務の状況
- 09. 会社概要/株式情報/株主メモ
- 10. グローバルネットワーク 国内ネットワーク
- 巻末. グローバルネットワーク 海外ネットワーク



### わが社の使命

信頼の絆をもとに、あらゆる変化に対応する強靱な経営基盤を堅持し、

1. お客さまに感謝される製品とサービスを提供します。
2. 能力と成果を公正に評価し、社員の生きがいを育みます。
3. 株主の皆さまの期待に応え、企業価値の向上を目指します。

これらの実践を通して豊かな社会の発展に貢献します。

### 事業領域

エンジニアリングプラスチックで培った先進技術をもとに、さらに最先端技術を追求し、創造的価値を世界市場に提供します。

### 経営姿勢

1. 卓越した技術と信頼される製品により、競争力と成長力を追求します。
2. 健全な財務体質により着実な発展を図ります。
3. 全ての企業活動において確かな品質に責任を持ちます。

### 行動指針

1. 創造的な目標を掲げ、情熱を持って挑戦します。
2. 感謝の心と学ぶ姿勢を大切にします。
3. 公私を明確にし、公明正大に行動します。



## 株主の皆様へ

当社は、創業以来培ってきたエンジニアリングプラスチック総合技術のさらなる先進化と活用により、常に高精度、高機能、高品質を追求し、お客様に感謝されるより良い製品とサービスの提供を通して社会の発展に貢献してまいります。

代表取締役社長

横田大輔

### Q第57期の経営実績について お話しください。

当連結会計年度の売上高は33,288百万円(前期比0.9%増)となり、営業利益は4,368百万円(前期比5.2%増)、経常利益は3,846百万円(前期比5.7%減)となりました。また、親会社株主に帰属する当期純利益は2,536百万円(前期比50.8%減)となりました。主な変動要因は、前期に発生した特別利益である固定資産売却益と訴訟損失引当金戻入額の反動減で、2,286百万円減少しました。

各セグメントの事業状況は次のとおりであります。

エンブラ事業では、自動車用部品は、良好な市況に支えられ国内を中心に販売が好調で、新規受注の獲得も売上増加に寄与しました。プリンター用部品は主要顧客からの受注が増加したものの、成熟した市場環境のもと足元は軟調に推移しました。

半導体機器事業については、車載用途の販売が引き

続き好調で、米国の主要顧客からの受注も回復しました。また、中国、台湾市場における販売も伸長しました。

オプト事業における光通信関連の光学デバイスは、クラウドサービスの拡大を受けてサーバー市場が好調で、ハイエンド製品の販売が増加しました。一方、LED用拡散レンズは、積極的な提案活動により新製品の受注に注力しましたが、現行主力製品の販売数量の減少と単価の下落の影響を受け、低調に推移しました。

エンブラ事業、半導体機器事業は対前期で増収増益でしたが、オプト事業の減益と為替の影響を受け、経常利益は前期を下回る結果となりました。

# 株主の皆様へ

## Q第58期の経営基本方針について お話しください。

当社グループでは、更なる成長を目指すため、以下を第58期の経営基本方針としております。

### Organic Growth 自律成長の推進

当社グループの事業分野であるエンブラ事業、半導体機器事業、オプト事業は日々新しい技術が生まれ、市場の変化が非常に激しい業界であります。また、米中の通商政策や各国の金融政策の影響も懸念され、予断を許さない状況が続くことが予想されます。このような状況の中、自律成長を推進するため、生産体制の高度化や最先端評価技術の確立による顧客提案力の強化、持続的な成長へ向けた投資を行うとともに、開発を進めてきた各種技術・新製品の早期事業化に注力してまいります。

## Qエンブラ事業についてお話しください。

エンブラ事業においては、高精度ギアを核としたOA・情報通信・音響映像機器、計器、住宅機器、自動車機器、バイオ関連等の製品を製造・販売しております。

現在、エンブラ事業の主力製品となっている自動車用部品やプリンター用部品の販売は比較的安定して推移しております。また、近年はバイオ関連や新事業創出のための投資も積極的に行っております。

## Q半導体機器事業についてお話しください。

半導体機器事業においては、半導体の信頼性テスト

をするための治具であるICテスト用ソケット、バーンインソケットを製造・販売しております。

世界の半導体メーカーと取引をしているため、為替の影響を受けやすく、また、販売のタイミングによって四半期での変動はございますが、年間では継続して販売が伸長しております。

## Qオプト事業についてお話しください。

オプト事業においては、光通信関連の光学デバイス、LED用拡散レンズを製造・販売しております。

光通信関連の光学デバイスは、好調なサーバー市場が追い風となり、毎年順調に販売が伸長しております。LED用拡散レンズにおいては、近年低調に推移しておりますが、オプト事業の安定事業化を目指し、多様な新製品の受注に向けて提案活動を継続してまいります。

## Q株主の皆様一言お願いします。

私たちは、創業以来培ってきた高精度・微細加工技術をもとに、当社にしか実現できない高付加価値製品の開発に挑戦し、お客様に感謝される製品・サービスを提供することで、豊かな社会の発展に貢献してまいります。当社はこれまでも、他社に先駆けて製品を開発し、量産技術を磨き、新しい市場を創出してまいりました。今後も既存市場での成長はもとより、積極的な新事業開発による新たな市場開拓の推進で、企業価値の向上を目指してまいります。

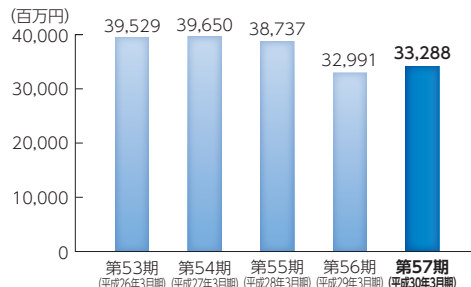
今後とも、株主の皆様にはより一層のご支援とご鞭撻をたまわります様、よろしくごお願い申し上げます。



# 連結業績の推移

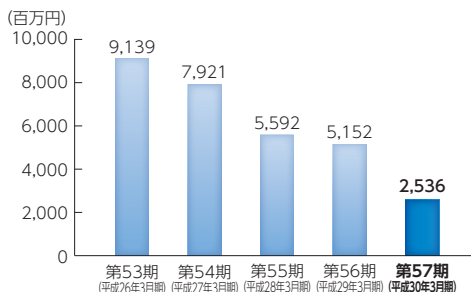
## ■ 連結売上高

1

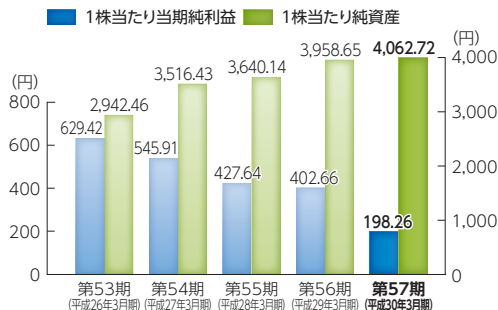


## ■ 親会社株主に帰属する連結当期純利益

3

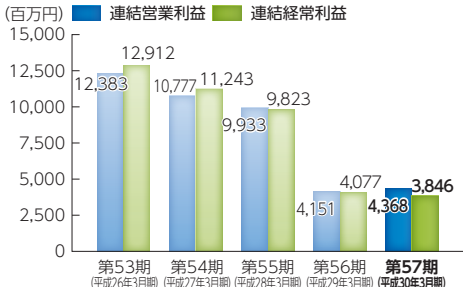


## ■ 1株当たり当期純利益 / 1株当たり純資産



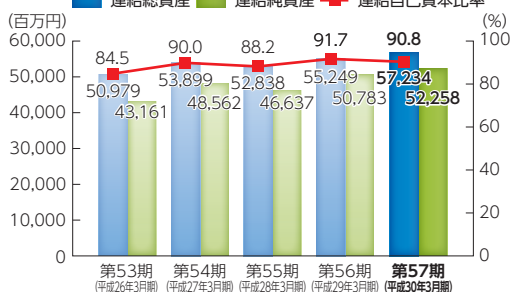
## ■ 連結営業利益 / 連結経常利益

2

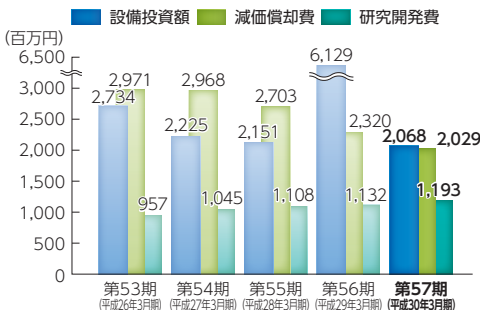


## ■ 連結総資産 / 連結純資産 / 連結自己資本比率

4



## ■ 設備投資額 / 減価償却費 / 研究開発費



### ポイント 1

当期における連結売上高は33,288百万円(前期比0.9%増)となりました。

### ポイント 2

連結営業利益は4,368百万円(前期比5.2%増)、連結経常利益は3,846百万円(前期比5.7%減)となりました。

### ポイント 3

親会社株主に帰属する連結当期純利益は2,536百万円(前期比50.8%減)となりました。

### ポイント 4

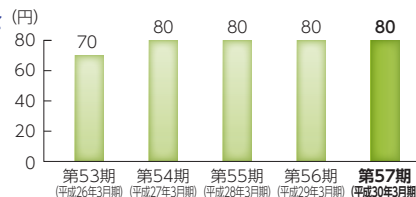
連結純資産は52,258百万円(前期比2.9%増)、自己資本比率は90.8%(前期比0.9ポイント減)となりました。

## 株主還元について

### 1株当たり 配当金80円

当社では、経営活動の成果を明確な形で株主の皆様へ還元することを基本方針とし、また、安定的配当の考え方も取り入れ、今期以降の業績予想を勘案して、中間配当を含む年間配当を1株当たり80円とさせていただきます。

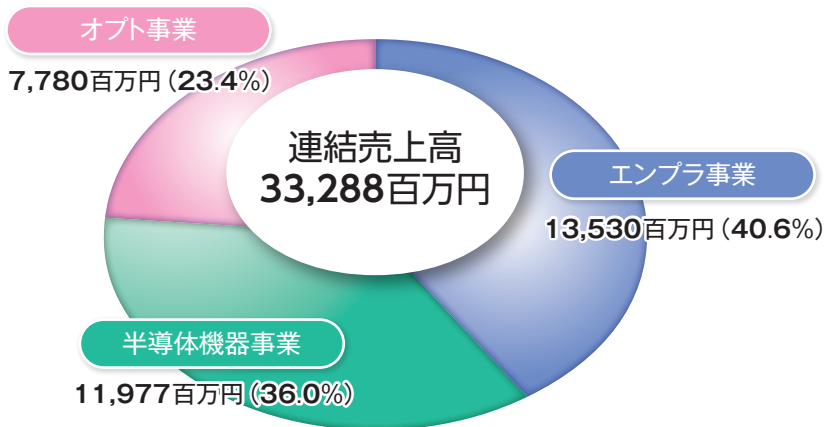
## ■ 配当金 (円)



# 事業別概況

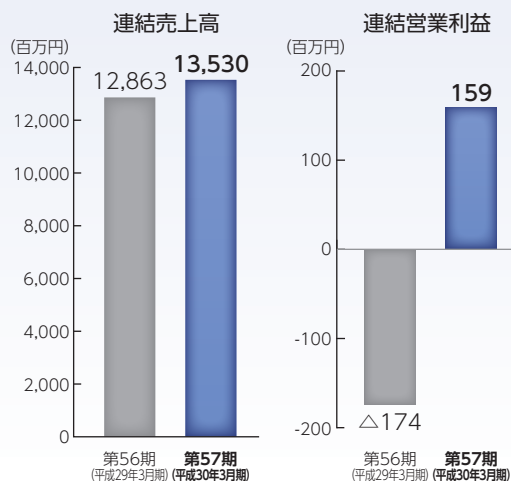
## 事業セグメント別連結売上高構成比 平成30年3月期 (平成29年4月1日から平成30年3月31日)

当社は創業以来、基幹事業としてエンプラ事業の高精度化・高機能化を進め、さらに、時代の変遷とともに、メカトロニクス領域からデジタル領域へと要素技術開発を展開し、半導体機器事業・オプト事業と事業領域の拡大を図ってまいりました。今後も世界のあらゆる産業分野に活動の場を広げていきたいと考えております。



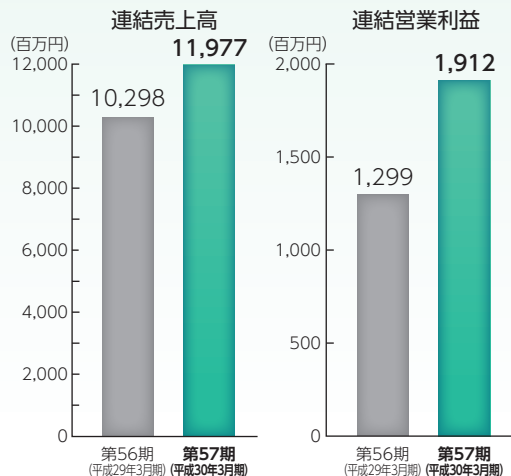
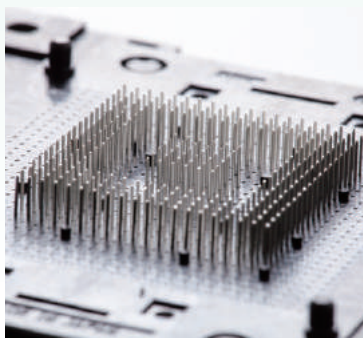
### エンプラ事業

自動車用部品は、良好な市況に支えられ国内を中心に販売が好調で、新規受注の獲得も売上増加に寄与しました。プリンター用部品は主要顧客からの受注が増加したものの、成熟した市場環境のもと足元は軟調に推移しました。この結果、当連結会計年度の売上高は13,530百万円（前期比5.2%増）、セグメント営業利益は159百万円（前期は174百万円の営業損失）となりました。



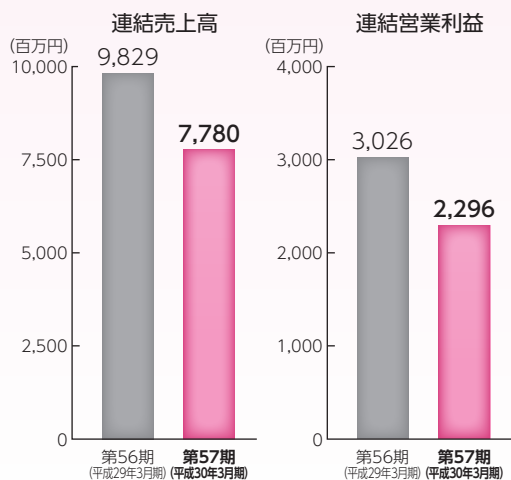
## 半導体機器事業

車載用途の販売が引き続き好調で、米国の主要顧客からの受注も回復しました。また、中国、台湾市場における販売も伸長しました。この結果、連結会計年度の売上高は11,977百万円（前期比16.3%増）、セグメント営業利益は1,912百万円（前期比47.1%増）となりました。



## オプト事業

光通信関連の光学デバイスは、クラウドサービスの拡大を受けてサーバー市場が好調で、ハイエンド製品の販売が増加しました。LED用拡散レンズは、積極的な提案活動により新製品の受注に注力しましたが、現行主力製品の販売数量の減少と単価の下落の影響を受け、低調に推移しました。この結果、当連結会計年度の売上高は7,780百万円（前期比20.8%減）、セグメント営業利益は2,296百万円（前期比24.1%減）となりました。



## 品質方針

お客様に感謝されるより良い品質の製品とサービスを提供します。

1. エンプラスグループは世界の全ての拠点において共通の品質方針を掲げ活動しています。
2. エンプラスは世界の全ての拠点において、ISO9001を基本フレームとした共通の品質マネジメントシステムで品質保証活動を推進しています。
3. エンプラスは品質第一主義で、全ての事業活動において品質改善活動を展開し、お客様に安心して使用していただける製品を生産・供給していきます。
4. エンプラスは供給する全ての製品の品質について責任を負うべく、各々の生産拠点で対応するほか、全社を上げて対応できるよう、本社への情報集中機能と本社からの支援活動機能を準備しています。

ISO9001 認証取得  
【登録組織】  
株式会社エンプラス  
【登録範囲】



1. 精密プラスチックギヤ、キャブレター用プラスチックフロート、プラスチックオプティクス、光学素子及びその他エンジニアリングプラスチック精密成形品の設計・開発、製造及び製造管理
2. ICソケット及びキャリアの設計・開発及び製造管理

## 環境活動 — 自らに厳しく。それが環境配慮への信念です。 —

エンプラスは、環境マネジメントシステムに関するグローバルスタンダードであるISO14001の認証を取得することはもちろんのこと、その規格に則って、環境マニュアルを作成し、比較的環境負荷の少ない地区においても「自己宣言」を行い、自らを厳しく律し、環境保全活動に取り組んでいます。

このような姿勢は、私たちの共有財産である環境の保全に対する意識を、より実質的かつ本質的に、企業として、個人として、高めようとするものでもあります。

さらに、積極的なエネルギーの節約と、環境に対する負荷の少ない製品の設計、製品の供給段階での負荷の減少、部材の効率的な活用、廃棄部材の削減など、製品の設計から製造におけるあらゆるプロセスにおいても環境へ配慮しています。

常に未来を見据えて技術の向上にもトータルに努めています。

### 環境方針

エンプラスは、エンジニアリングプラスチック及びその複合材による、高精度・高機能プラスチック精密機構部品・製品の開発、製造、販売に関わるあらゆる面で、地球環境の保全を企業の果たすべき重要な課題として捉え、その保護活動に積極的に取り組みます。

1. 環境目標を設定し、それを達成するために全社的な環境管理システムを構築し、継続的な改善向上を図ります。
2. 業務の合理化や改善等を通じ、環境負荷の低減・省エネルギー（電力使用量等削減/CO<sub>2</sub>削減）を推進します。
3. 廃プラスチックの削減と再資源化を推進します。
4. サプライヤーとの協働により調達品の環境負荷低減に努めます。
5. 環境規制や環境協定等を順守します。
6. 企業活動から汚染を排出しないようその予防に努めます。
7. 社会の一員として、地域の環境保護や維持に貢献します。

ISO14001 認証取得  
【登録組織】  
株式会社エンプラス  
鹿沼工場  
【登録範囲】



エンジニアリングプラスチック及びその複合材によるプラスチック精密機構部品・製品の開発、製造

ISO 14001  
REGISTERED

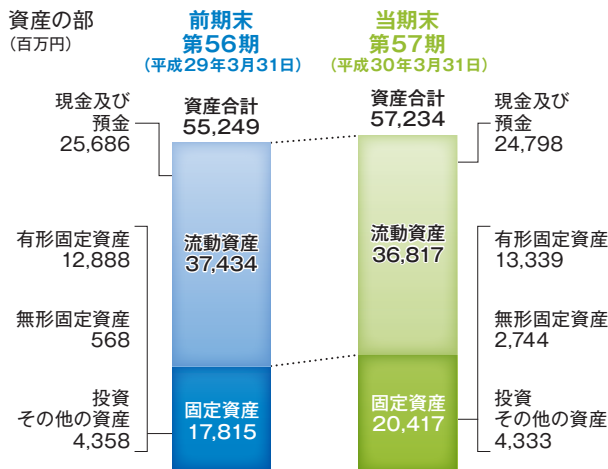
### 〈適用範囲〉

組織の単位・物理的境界	区分	適用範囲
工 株 式 会 社 エ ン プ ラ ス	グローバル本社	自己宣言
	本社	自己宣言
	鹿沼工場	審査登録
	浜松町事業所	自己宣言
国 内 グ ル ー プ 会 社	株式会社エンプラス 研究所	自己宣言
	株式会社エンプラス ディスプレイデバイス	自己宣言
	株式会社エンプラス 半導体機器	自己宣言
	QMS株式会社	自己宣言

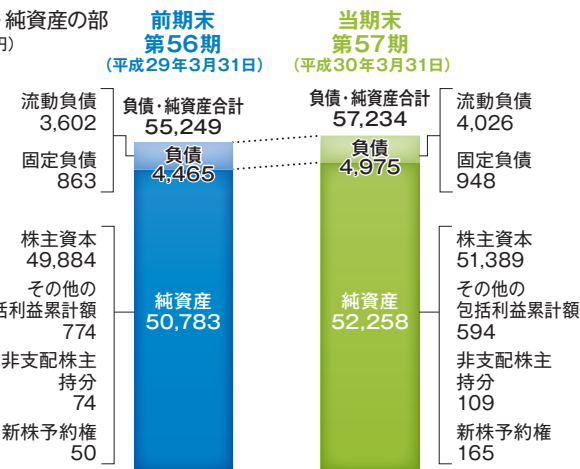


# 連結財務の状況

## ■連結貸借対照表の概要

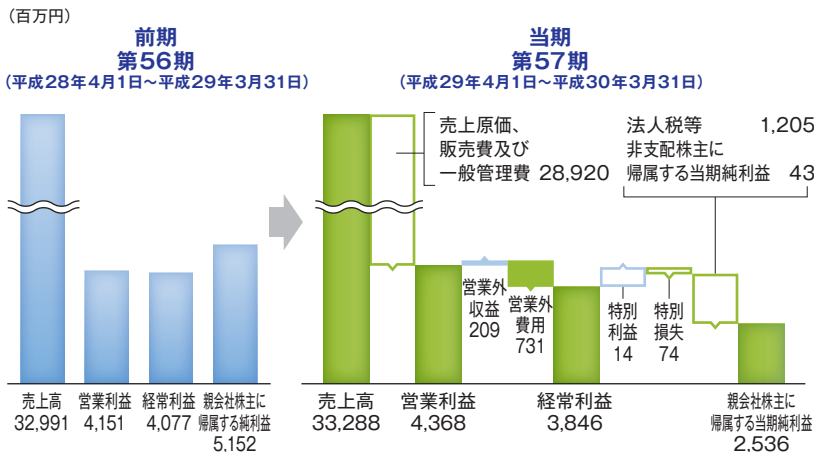


総資産は57,234百万円となり、前連結会計年度末比1,985百万円の増加となりました。流動資産が617百万円減少しましたが、固定資産につきましては2,602百万円増加しました。主な変動要因は無形固定資産で2,175百万円、有形固定資産で451百万円増加したことによるものです。



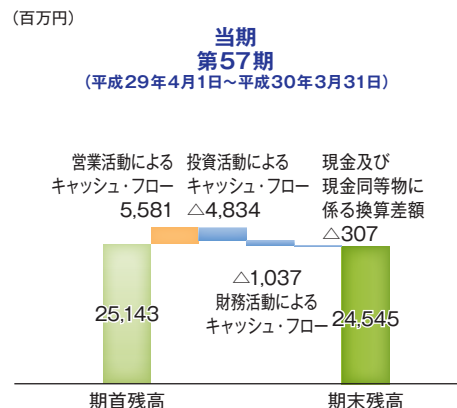
純資産は52,258百万円となり、前連結会計年度末比1,475百万円の増加となりました。その結果、自己資本比率は90.8%となり、前連結会計年度末比0.9ポイント減少しております。

## ■連結損益計算書の概要



連結売上高は33,288百万円(前年同期比0.9%増)となり、連結営業利益は4,368百万円(前年同期比5.2%増)、連結経常利益は3,846百万円(前年同期比5.7%減)、親会社株主に帰属する当期純利益は2,536百万円(前年同期比50.8%減)となりました。

## ■連結キャッシュ・フロー計算書の概要



当期における現金及び現金同等物は24,545百万円となり、前連結会計年度末に比べて、598百万円減少しました。

# 会社概要 / 株式情報 / 株主メモ

(平成30年6月22日現在)

(平成30年3月31日現在)

## 会社概要

商号 株式会社エンプラス  
所在地 埼玉県川口市並木2丁目30番1号  
設立 1962年2月21日  
資本金 80億8,045万円

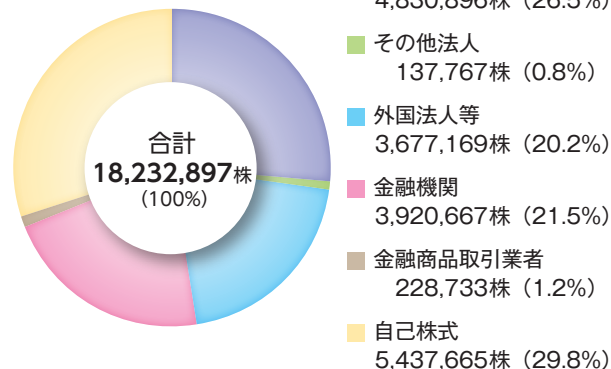
## 株式情報

発行可能株式総数 62,400,000株  
発行済株式総数 18,232,897株  
株主数 4,982名

## 取締役及び執行役員

代表取締役兼社長執行役員	横田 大輔
取締役兼専務執行役員	酒井 崇
取締役	井植 敏雅
取締役(監査等委員)	ヨーン・ヨーン・リオン
取締役(監査等委員)	風巻 成典
取締役(監査等委員)	長谷川 一郎
常務経営執行役員	菊地 豊
経営執行役員	田宮 義男
経営執行役員	沓沢 茂雄
経営執行役員	高山 直亮
執行役員	星野 清孝
執行役員	宮坂 章司
執行役員	藤田 慈也

## 所有者別株式分布状況



## 株主メモ

事業年度 4月1日から翌年の3月31日まで  
定時株主総会 毎年6月  
株主名簿管理人 東京証券代行株式会社  
取次事務は、三井住友信託銀行株式会社本店及び全国各支店で行っております。  
郵便物送付先、連絡先 〒168-8522 東京都杉並区和泉二丁目8番4号  
東京証券代行株式会社 事務センター(お問い合わせ先) ☎0120-49-7009  
基準日 定時株主総会の議決権 3月31日  
公告方法 電子公告(<http://www.enplas.com>)  
ただし、電子公告によることができないときは、日本経済新聞に掲載する方法とします。  
貸借対照表、損益計算書は、決算公告に代えてEDINET (<http://info.edinet-fsa.go.jp/>)にて開示しております。  
上場金融商品取引所 東京証券取引所 市場第一部

# グローバルネットワーク

## 国内ネットワーク

### グローバル本社

東京都千代田区丸の内1丁目6番2号 新丸の内センタービルディング9F

### 本社

埼玉県川口市並木2丁目30番1号



東京都

- ・グローバル本社
- ・株式会社シングルセルテクノロジー
- ・浜松町事業所

鹿沼工場

埼玉県川口市

- ・本社
- ・株式会社エンプラス ディスプレイ デバイス
- ・株式会社エンプラス研究所
- ・QMS株式会社
- ・株式会社エンプラス半導体機器

名古屋営業所

西日本営業所

九州営業所



本社  
株式会社エンプラスディスプレイデバイス



鹿沼工場



株式会社エンプラス半導体機器



QMS株式会社



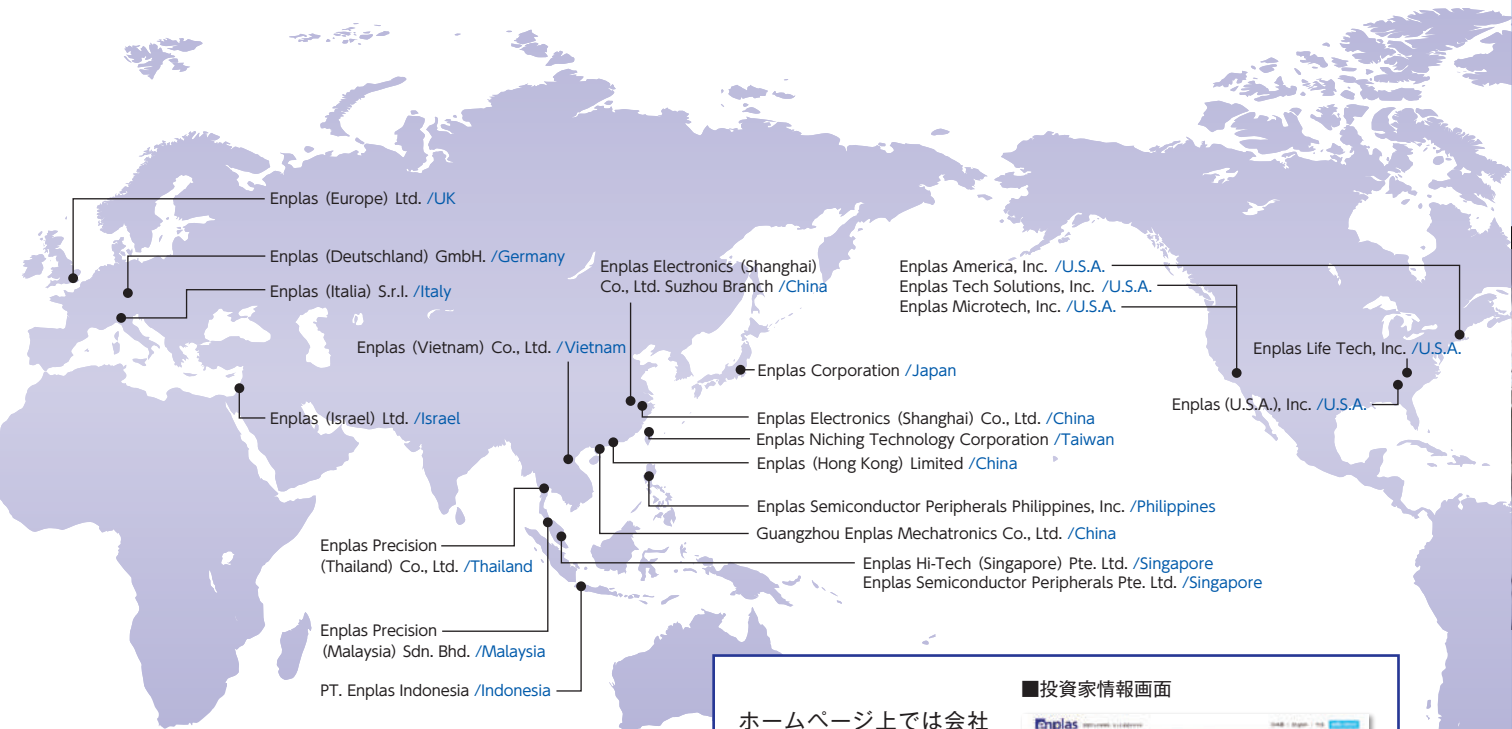
株式会社エンプラス研究所

# グローバルネットワーク

## ■ 海外ネットワーク

### 技術の絆。信頼の絆。活躍の舞台はグローバルです。

アジア、アメリカ、ヨーロッパにある世界拠点を結ぶグローバルネットワークによって24時間稼働し続ける「エンプラス」グループ。こうしたグローバルネットワークを通じて、企画・開発段階から、各産業界のトップメーカーと技術に裏打ちされた信頼のパートナーシップを構築。世界企業としてエンプラスは、さらに大きく羽ばたこうとしています。



## 株式会社エンプラス

〒332-0034 埼玉県川口市並木2丁目30番1号  
Tel : 048-253-3131 (代表) Fax : 048-255-1688  
<http://www.enplas.com>



見やすいユニバーサル  
デザインフォントを採用しています。



ホームページ上では会社概要、財務情報をはじめ業務内容やプレスリリースなど最新の情報を幅広くお知らせしています。ぜひご覧ください。

エンプラス IR 検索

### ■ 投資家情報画面

